

妙法蓮華經。提婆達多品。第十二

爾の時に佛、諸の菩薩及び天人・四衆に告げたまわく、

吾過去無量劫の中に於て法華經を求めしに、懈倦あることな

し。多劫の中に於て常に國王と作つて、願を發して無上菩提を求

めしに、心退轉せず。六波羅蜜を満足せんと欲するをもつて

布施を勤行せしに、心に象馬・七珍・國城・妻子・奴婢・

僕從・頭目・髓腦・身肉・手足を憍惜することなく、軀命をも

惜まざりき。時に世の人民壽命無量なり。法の爲の故に國位を

捨てて政を太子に委せ、鼓を撃つて四方に宣令して法を求

めき。

誰か能く我が爲に大乘を説かん者なる。吾當に身終るまで

供給し走使すべし。

時に仙人あり、來つて王に白して言さく、

我大乘を有てり、妙法蓮華經と名けたてまつる。若し我に違

わずんば當に爲に宣説すべし。

王、仙の言を聞いて歡喜踊躍し、即ち仙人に隨つて所須を

供給し、果を採り、水を汲み、薪を拾い、食を設け、乃至身を

以て狀座と作せしに、身心倦きことなかりき。時に奉事するこ

と千歳を経て、法の爲の故に精勤し給侍して、乏しき所なから

しめき。

爾の時に世尊、重ねて此の義を宣べんと欲して、偈を説いて

言わく

我過去の劫を念うに 大法を求むるをもつての故に

世の國王と作れりと雖も 五欲の樂を貪らざりき

鐘を椎いて四方に告ぐ 誰か大法を有てる者なる

若し我が爲に解説せば 身當に奴僕と爲るべし

時に阿私仙あり 來つて大王に白さく

我微妙の法を有てり 世間に希有なる所なり

若し能く修行せば 吾當に汝が爲に説くべし

時に王仙の言を聞いて 心に大喜悅を生じ

即便仙人に隨つて 所須を供給し

薪及び果 蘇を採つて 時に隨つて恭敬して與えき

情に妙法を存ぜざるが故に 身心懈倦なかりき

普く諸の衆生の爲に 大法を勤求して

亦己が身 及び五欲の樂の爲にせず

故に大國の王と爲つて 勤求して此の法を獲て

遂に成佛を得ることを致せり 今故に汝が爲に説く

佛 諸の比丘に告げたまわく、

爾の時の王とは 則ち我が身是れなり。時の仙人とは今の

提婆達多是れなり。提婆達多が善知識に由るが故に、我をして六

波羅蜜・慈悲喜捨・三十二相・八十種好・紫磨金色・十力・四

無所畏・四攝法・十八不共・神通道力を具足せしめたり。

等正覺を成じて廣く衆生を度すること、皆提婆達多が善知識

に因るが故なり。

諸の四衆に告げたまわく、

提婆達多却つて後無量劫を過ぎて、當に成佛することを得べ

し。號を天王如來・應供・正徧知・明行足・善逝・世間解・

無上士・調御丈夫・天人師・佛・世尊といわん。世界を天道と名

けん。時に天王佛世に住すること二十中劫、廣く衆生の爲に

妙法を説かん。恒河沙の衆生阿羅漢果を得、無量の衆生緣覺

の心を發し、恒河沙の衆生無上道の心を發し無生忍を得、不

退轉に住せん。時に天王佛般涅槃の後、正法世に住すること

二十中劫、全身の舍利に七寶の塔を起てて、高さ六十由旬、

縱廣四十由旬ならん。諸天・人民悉く雜華・抹香・燒香・塗香・衣服・瓔珞・幢幡・寶蓋・伎樂・歌頌を以て、七寶の妙塔を禮拜し供養せん。無量の衆生阿羅漢果を得、無數の衆生辟支佛を悟り、不可思議の衆生菩提心を發して不退轉に至らん。

佛諸の比丘に告げたまわく、

未來世の中に若し善男子・善女人あつて、妙法華經の提婆達多品を聞いて、淨心に信敬して疑惑を生ぜざらん者は、地獄・餓鬼・畜生に墮ちずして十方の佛前に生ぜん。所生の處には常に此の經を聞かん。若し人・天の中に生るれば勝妙の樂を受け、若し佛前にあらば蓮華より化生せん。

時に下方の多寶世尊の所從の菩薩、名を智積という。多寶佛に啓さく、

當に本土に還りたまうべし。

釋迦牟尼佛、智積に告げて曰わく、

善男子、且く須臾を待て。此に菩薩あり、文殊師利と名く。

與に相見るべし。妙法を論說して本土に還るべし。

爾の時に文殊師利、千葉の蓮華の大き車輪の如くなるに坐し、俱に來たれる菩薩も亦寶蓮華に坐して、大海の娑竭羅龍宮より自然に涌出して、虛空の中に住し、靈鷲山に詣でて蓮華より下りて、佛前に至り、頭面に二世尊の足を敬禮し、敬を修すること已に畢つて、智積の所に往いて共に相慰問して、却つて一面に坐しぬ。

智積菩薩、文殊師利に問わく、

仁、龍宮に往いて化する所の衆生、其の數幾何ぞ。

文殊師利の言わく、

其の數無量にして稱計す可からず。口の宣ぶる所に非ず、心の測る所に非ず。且く須臾を待て。自ら當に證あるべし。

所言未だ竟らざるに、無數の菩薩寶蓮華に坐して海より涌出し、靈鷲山に詣でて虚空に住在せり。此の諸の菩薩は、皆是れ文殊師利の化度せる所なり。菩薩の行を具して皆共に六波羅蜜を論説す。本聲聞なりし人は虚空の中に在つて聲聞の行を説く。今皆大乘の空の義を修行す。

文殊師利、智積に謂つて曰く、海に於て教化せること其の事此の如し。

爾の時に智積菩薩偈を以て讚めて曰く、

大智徳勇健にして 無量の衆を化度せり

今此の諸の大會 及び我皆已に見つ

實相の義を演暢し 一乗の法を開闡して

廣く諸の群生を導いて 速かに菩提を成ぜしむ

文殊師利の言わく、

我海中に於て唯常に妙法華經を宣説す。

智積菩薩、文殊師利に問うて言わく、

此の經は甚深微妙にして諸經の中の寶、世に希有なる所なり。頗し衆生の勤加精進し此の經を修行して、速かに佛を得るありや不や。

文殊師利の言わく、

有り。娑竭羅龍王の女年始めて八歳なり。智慧利根にして、

善く衆生の諸根の行業を知り、陀羅尼を得、諸佛の所説・甚深

の祕藏、悉く能く受持し、深く禪定に入つて諸法を了達し、

刹那の頃に於て菩提心を發して不退轉を得たり。辯才無礙にし

て、衆生を慈念すること猶お赤子の如し。功德具足して、心に

念おもい口くちに演のぶること微妙みみょう廣大こうだいなり。慈悲じひ仁讓にんじょう・志意しい和雅わげにして能よく菩提ぼだいに至いたり。

智積ちしやく菩薩ぼさつの言いわく、

我われ釋迦しやくかに如來にょらいを見みたてまつれば、無量劫むりょうこつに於おいて難行なんぎょう苦行くぎょうし功こうを積つみ徳とくを累かさねて、菩薩ぼさつの道どうを求もとむること未いまだ會かつて止息しそくしたまわす。三千大千世界だいせかいを觀みるに、乃至ないし芥子けいしの如ごとき許ばかりも、是これ菩薩ぼさつにして身命しんみやうを捨すてたもう處ところに非あらることあることなし、衆生しゆじょうの爲ための故ゆゑなり。然しかうして後のちに乃すなわち菩提ぼだいの道どうを成じやうずることを得えたまえり。信しんぜじ、此この女にょの須臾しゆゆの頃あいだに於おいて便すなわち正覺しやうがくを成じやうずることを。

言論ごんろん未いまだ訖おわらざるに、時ときに龍王りゅうおうの女むすめ、忽たちまちに前みまえに現げんじて、

頭面ずめんに禮敬らいきやうし、却さつて一面めんに住じゆうして、偈げを以もつて讚ほめて曰もつさく、

深ふかく罪福ざいふくの相そうを達たつして 徧あまねく十方ぼうを照てらしたもう

微妙みみょうの淨きよき法身ほつしん 相そうを具ぐせること三十二

八十種しゆじゆう好こうを以もつて 用もつて法身ほつしんを莊嚴しやうげんせり

天てん・人にんの戴仰たいやうする所ところ 龍神りゅうじんも咸ことごとく恭敬くぎやうす

一切さいしゆ衆生じゆうの類るい 宗奉しゆうぶせざる者ものなし

又また聞きいて菩提ぼだいを成じやうずること

唯佛ただほとけのみ當まさに證知しやうちしたもうべし

我大乘われだいじやうの教きやうを闡ひらいて 苦くの衆生しゆじゆうを度脫どだつせん

爾その時ときに舍利弗しゃりほつ、龍女りゅうにょに語かたつて言いわく、

汝なんじ久ひさしからずして無上道むじやうどうを得えたりと謂おもえる。是この事じ信しんじ難がた

し。所以ゆゑは何いかん、女身にょしんは垢穢くゑにして是これ法器ほうきに非あらず。云何いかなぞ能よく

無上菩提むじやうぼだいを得えん。佛道ぶつどうは懸曠けんかうなり。無量劫むりょうこつを經へて勤苦ごんくして行ぎやうを

積つみ、具つがさに諸度しよどを修しゆし、然しかうして後のちに乃すなわち成じやうず。又また女人にょにんの身み

には猶なお五障しよじやうあり、一いちには梵天王ぼんてんのうとなることを得えず、二にには

帝釋たいしやく、三さんには魔王まおう、四しには轉輪聖王てんりんじやうおう、五ごには佛身ぶつしんなり。云何いかなぞ

女身速かに成佛することを得ん。

爾の時に龍女一つの寶珠あり、價直三千大千世界なり。持つて以て佛に上る。佛即ち之を受けたもう。

龍女、智積菩薩・尊者舍利弗に謂つて言わく、

我寶珠を獻る。世尊の納受是の事疾しや不や。

答えて言わく、

甚だ疾し。

女の言わく、

汝が神力を以て我が成佛を觀よ。復此れよりも速かならん。

當時の衆會、皆龍女の忽然の間に變じて男子となつて、菩薩の行を具して、即ち南方無垢世界に往いて寶蓮華に坐して等正覺を成じ、三十二相・八十種好あつて、普く十方の一切衆生の爲に妙法を演説するを見る。

爾の時に娑婆世界の菩薩・聲聞・天・龍・八部・人と非人と皆遙かに彼の龍女の成佛して、普く時の會の人・天の爲に法を説くを見て、心大に歡喜して悉く遙かに敬禮す。無量の衆生法を聞いて解悟し不退轉を得、無量の衆生道の記を受くることを得たり。無垢世界六反に震動す。娑婆世界の三千の衆生不退の地に住し、三千の衆生、菩提心を發して受記を得たり。智積菩薩及び舍利弗、一切の衆會默然として信受す。